

## 穂高幼稚園の『いいことみ〜つけた』 ～すみれ・ひまわり組のこどもたちの 『お茶を点てるまで物語』～

穂高幼稚園では、体験を通して子どもたちの感性や豊かな遊びと学びを願い今年度は、年長児と一緒に、普段の暮らしの中に日本の文化に触れる機会として茶道体験を行ってきました。

お茶の先生には地域で活躍されている『裏千家渡辺茶道教室 渡辺宗幸 氏』を講師に迎え、年6回の茶道教室を行いました。

お茶の先生から、「お茶は自分の気持ちを整え、相手のことを思い、心を込めて点てるものであること、その思いを形にして表すことが茶道の所作であること」と教わり、礼の仕方や意味を学びました。

普段の暮らしの中で伝統文化に触れる機会を持てる事は、とても貴重な体験となりました。

### <1回目>

お茶の先生に、お茶道具を見せてもらいお茶の絵本を読んでもらいました。

お茶の[礼]についても一緒にやってみます。 だんだん足がしびれる～～～

その後、先生に点てていただいたお抹茶を味見です。ドキドキ、ワクワク！

「う・・・にがい」「美味しい」と感想は色々です。



## <2回目>

「礼にはじまり 礼におわる」相手に思いを寄せるために、自分の心も整えます。

お茶の飲み方の作法は、点ててくれた相手に対して感謝の気持ちをもって「いただきます」姿勢を保ち、スツ スツとすり足でお茶碗を持って歩きます。姿勢も良くなっています。お作法も少しずつ、自分で思いだしながらお茶をいただきます。



## <陶芸教室>

世界にひとつだけの お抹茶茶碗をつくります。椀型にするまでが難しいね。

作っている表情は、真剣！職人のようです。出来上がりが楽しみです。



### <お買い物体験>

地域のお店のご協力により行っているお買い物体験。今年度は、子どもたちと「どんなものが  
必要な？」と相談すると、「お茶の道具がいい」という声が上がってきました。その中から、自分  
のお茶碗を飾るお盆を買いに行こうと決めました。お買い物の日まで、子どもたちはお家で、自  
分で決めたお手伝いをしながらお小遣いをためてきました。自分で作ったお茶碗に合うお盆を選  
び、買ってきたのです。さっそくお茶碗をのせてみると「うん！似合う！」「いいお茶碗になった」  
と頷いていました。



<3回目>

陶芸教室で作った抹茶茶碗が出来上がりました。どのお椀も、味があってとてもいい出来上がり！より気持ちが入ります。

渡辺先生の手作り練習用茶筴で、持ち方や点て方を教わります。お茶碗の底をなでるように上下に動かすことを意識します。いよいよ、自分のお椀でお茶を点ててみます。

お茶の泡がたつかな？ 自分で点てたお茶のお味はいかがでしょう？



<4回目・5回目>

『相手のために気持ちを整え、相手のことを思い、お茶を点てる』

お友だちに、お茶を点てます。 前回よりも、茶筴を上手に使えるようになりました。

心を込めて、お茶を点てることに集中します。

お友達が点ててくれたお茶を、感謝の気持ちでいただきます。



相手を大切に思う心は、自分を大切にできるからこそ思いを寄せることができるのです。日々の遊びや生活の中で、年齢と共に『自分』をしっかり主張した時期を経て、友だちと一緒に楽しいと感じ、やり取りの中で関わりを学びながら、相手を思う気持ちが積み重なってきました。

#### <6回目>

子どもたちから、「お家の人にお茶を点てたい」「ありがとうって気持ちを言いたい」と、お点前を披露する計画を立てました。当日は、プレイルームが茶室になり、自分で買い物をしたお盆に自分が作ったお茶碗をのせ、お家の方に感謝の気持ちを込めて、お点前を披露しました。

今まで学んできた作法にならい保護者の前で、心を込めてお茶を点てる子どもたち。子どもたちの表情や指先までしっかりと見つめ、その思いを感じる保護者。茶筴を動かす音だけが響く室内は、親子のそれぞれの思いが通っていました。

子どもたちが、生まれて初めて点てたお茶を召し上がった保護者の方から、「世界一美味しいお茶でした。この味とこの時間は、一生忘れません」というお言葉をいただきました。

お点前の披露が終わると、お茶の渡辺先生から、茶道教室の終了証である『おしるし』を一人ひとりいただきました。



卒園を前に、子どもたちも、保護者の皆様にとっても素敵な時間となりました。